

# 荒川ふるさと

## 文化館だより

荒川区教育委員会  
荒川ふるさと文化館  
荒川区南千住6-63-1  
TEL (3807) 9234  
登録 (10) 0027-2号

### 企画展 幕末の三筆展

— 貫名海屋を中心として —

当館では、平成10年10月24日～11月22日まで企画展・植村和堂書画コレクション「幕末の三筆展」貫名海屋を中心として開催しました。

植村和堂書画コレクションは日本書道界の重鎮・植村和堂氏（西日暮里4丁目）が長年にわたって収集した、江戸時代の文化人の書画コレクションです。平成10年5月1日の当館の開館を記念して荒川区に寄贈されました。

これまでに館蔵資料展として数点ずつ紹介してきましたが、今回は当コレクションの4割を占める貫名海屋を中心にして荒川区に寄贈されました。

これまでに館蔵資料展として数点ずつ紹介してきましたが、今回は当コレクションの4割を占める貫名海屋を中心にして荒川区に寄贈されました。

これまでも、企画展では荒川区の歴史や文化に関する様々な情報を紹介していく予定ですので、どうぞ期待ください。

江戸時代初頭から中期・後期と時代が移り変わっていく中で、職人の生活や生業がどのように変わっていたのかをさまざまな資料を用いて解説していただき、興味深い講演となりました。これをきっかけに今後、伝統工芸に関する理解と興味を深めていただけたら幸いです。

これからも、企画展では荒川区の歴史や文化に関する様々な情報を紹介していく予定ですので、どうぞ期待ください。

### 平成10年度館蔵資料展示

平成10年12月から平成11年3月にかけて企画展示室で館蔵資料展示を行いました。展示内容は「植村和堂書画コレクション・荒川区指定無形文化財保持者製作伝統工芸作品展示」です。

植村和堂書画コレクションでは貫名海屋の作品による新春にふさわしい書画を中心に展示しました。

平成10年9月12日～10月11日まで企画展「技・粹・趣」と題して、伝統工芸技術を保存するための区の事業として平成元年度から現在まで購入した区指定無形文化財保持者の作品36点を展示了しました。

現在、後継者不足・日本人の生活様式の変化などさまざまな要因により伝統工芸技術は失われつつありますが、多くの来館者の方に区内に残る職人さん達の素晴らしい「技の結晶」を堪能していただ

七言絶句行書 市河米庵筆

昔時新權草筋身鞍馬  
獲苑列舊臣今日退休  
志徳深怡然セ十三画春  
致仕作三一走翁

市河  
米庵

七言  
絶句

「溪亭」三行草書 貫名海屋筆

二行草書 卷菱湖筆

## 企画展・資料蔵館・展示

### 企画展「技・粹・趣」

— 荒川区指定無形文化財保持者作品展 —

平成10年9月12日～10月11日まで企画

展「技・粹・趣」と題して、伝統工芸技術を保存するための区の事業として平成元年度から現在まで購入した区指定無形文化財保持者の作品36点を展示了しました。

現在、後継者不足・日本人の生活様式の変化などさまざまな要因により伝統工芸技術は失われつつありますが、多くの来館者の方に区内に残る職人さん達の素晴らしい「技の結晶」を堪能していただ

『伝統に生きる』は、郷土学習室のビデオースで鑑賞することができます。また、図書館でもビデオを貸出して 이용ください。（飯島伸幸）

# 平成10年度 荒川区登録・指定文化財一覧

## ◆ 平成10年度 荒川区指定文化財

### ◇ 無形文化財（工芸技術）1件

・檜皮葺・柿葺・銅葺

谷上 勲

東尾久3-29-4

## ◆ 平成10年度 荒川区登録文化財

### ◇ 有形文化財（歴史資料）1件

・皆川号外コレクション

荒川区教育委員会

南千住6-63-1

(荒川ふるさと文化館内)

### ◇ 無形文化財（工芸技術）1件

・塗師

角光男

西尾久4-6-10

### ◇ 有形民俗文化財 1件

・胡粉袋版木

高田圭代子

南千住8-51-2-102

荒川区教育委員会は、平成10年11月30日、本年度の登録・指定文化財を上記のように告示しました。このうち指定文化財を紹介します。

## 荒川区指定文化財紹介 《平成10年度指定分》



（内容）檜皮葺は、檜の立木の表皮を加工したものであり、柿葺は柿などの材料で薄板を作り、いずれも竹釘をもつて野地面に打ち付ける。保持者はこれらの技術と、銅板を屋根の形に合わせて加工して葺きあげる銅葺の技術を持つ。  
主な仕事には円覚寺（神奈川県鎌倉市）  
舍利殿、鐘楼の柿葺、鹿島神宮（茨城県  
鹿島市）奥宮本殿などがある。  
50年近い経験を有し、これまでに国宝  
および重要文化財の屋根葺・修理を手掛けた国内でも数少ない伝統工芸技術保持  
者の一人である。  
（早乙女祐子）

無形文化財・工芸技術  
土木・建築（檜皮葺・柿葺・銅葺）  
〈所有者〉谷上 勲  
昭和4年6月21日生  
東尾久3-29-4

（伝来）和歌山県高野山の麓には、高野山の諸堂巡営に従事した「屋根屋」の存在が知られている。保持者は、明治初年（一八六八）にその一つ「天王寺屋」から独立した谷上善助氏の系統をひく。父伊三郎氏（三代目・元文化庁選定技術保持者）は国宝・重要文化財の社寺等の屋根修理を多く手掛けている。保持者は、昭和27年頃から伊三郎氏の仕事を手伝うようになり技術を修得した。昭和31年以後東尾久に居住し、現在に至る。

（内容）檜皮葺は、檜の立木の表皮を加工したものであり、柿葺は柿などの材料で薄板を作り、いずれも竹釘をもつて野地面に打ち付ける。保持者はこれらの技術と、銅板を屋根の形に合わせて加工して葺きあげる銅葺の技術を持つ。

小山さんの手掛けるすだれは、「小物すだれ」が中心となり、薔薇用すだれ、すじ用すだれ、寿司用すだれなど、私たちが普段生活している中で自然と目にしているものが多く見られます。他にも日本で使われるすだれ、寿司用すだれの工程を除け用の長物すだれも注文に応じて製作し、オリジナルの作品も考案しています。

映画の中では、薔薇用すだれの工程を中心とし、技術が映しだされます。ひとつのみを撮影するといつても、正面から、斜め上から、アップといろいろな角度から、手の動き、顔の表情など普段の視線では見えない部分をカメラが捉えていきます。撮影する側は職人さんの仕事場での作業となるため、撮影ごとに機材の置き場に工夫をこらしています。何日もかかって撮影した中から20分程度に編集されます。この後、ナレーションと音楽が入り、完成します。こうして、皆さんのが伝統技術展などで御覧いただいている作品が生まれます。

区内に住む職人の技術に興味のある方は、区内各図書館で貸し出していますので、ご利用ください。（八代和香子）

“伝統に生きる”無事撮影終了！

## 史跡めぐり報告

### 「南千住の交通史をたどる旅」

史跡めぐりは区内を4つの地域(尾久、荒川・町屋、日暮里、南千住)にわけて、年に1回行っています。今回は10月24日に南千住の史跡めぐりを国道4号線(日光街道)・コツ通りを中心に半日コースで行いました。

南千住は区内でも特に古い歴史をもつた地域です。平安期すでに石浜・橋場付近には隅田の渡しが設けられ、水陸の交通が発達していました。江戸時代には日光道中が通り、奥州への玄関口として大変賑わいました。近代以降は大規模工場の設立に伴い、隅田川貨物駅や南千住駅の開設、国道4号線の整備等で、一層の発展を遂げていきました。それでは当日たどったコースを見ていくことにしましょう。まずJR南千住駅に集合して最初に訪れた回向院。駅からほど近いこの寺院は江戸時代からあった小塚原刑場の跡地として知られ、幕末の歴史にその名をとどめる吉田松陰、橋本左内や草奔の志士らの記念墓等も残されています。回向院近くの延命寺で、刑死者の供養のためにたてられた首切地蔵を見学した後、明治29年の開設以来、貨物輸送の拠点となっている隅田川貨物駅を見ながら、投込寺として名高い淨閑寺へ。薄幸の遊女たちを葬つたこ



の寺には永井荷風をはじめとする文学者もよく訪れ、境内には新吉原總靈塔のか文学記念碑なども目につきます。淨閑寺脇には、近代以前農業用水として利用された音無川が流れ、今は暗渠になつている川筋にかつての三ノ輪橋の場所を確認することができます。都電終点の停留所名になつている三ノ輪橋はどこにあるの、という質問をしばしば耳にしますが、実際には標柱が残るのみです。その

都電荒川線終点三ノ輪橋駅から、円通寺へ向かいます。平安時代、源義家が、奥州平定の際に立ち寄ったという由緒を伝える古刹です。そして下谷道を抜け、素盞雄神社では、瑞光石や松尾芭蕉の碑を見て、徳川家康が隅田川に最初に架けた橋として知られる千住大橋へ。江戸時代、川越夜舟で賑わった千住大橋の袂には、明治時代以降一銭蒸汽が行き交いました。

それでは当日たどったコースを見ていくことにしましょう。まずJR南千住駅に集

めてもう一度、この寺院は江戸時代からあった小塚原刑場跡地として知られ、江戸時代は鈴ヶ森(品川区)とともに江戸の両御仕置場と呼ばれていました。小塚原が刑場とされた年次は未詳ですが、寛文7年(一六六七)には本所回向院の持地となっています。明治初期に廃止されるまで、多くの人がびとがそこで処刑されたといわれています。このあたりは、小塚原の刑場跡地としていることから、全て出土したとはいえないことがあります。

周知の遺跡(周知の埋蔵文化財包蔵地)の場合、事前に連絡を受け、試掘調査をし、地下に埋蔵物があるかないかを確認するのが通常のすめ方ですが、このように工事中に埋蔵物が発見されることもあります。

今回はこの工事中の発見にともなう緊急調査となりました。協議の結果、工事にともなう掘削深度は、今回発見した深さ程度であることから、地下の埋蔵物を破壊しないと判断し、慎重に工事をすすめてもうすることになりました。

低地で地表面より下70センチメートルほどで水が湧くことが多いこの周辺は、地盤が弱く、側面を押さえながらの工事であり、危険がともなうため、木枠と頭骨を取り上げることを中心に行いました。

木枠の中には泥炭層の土がつまっています、上から見るとわからなかつたのですが、木枠を2~3枚外すと、中から頭骨が幾つもこぼれ落ち、かなりの数が入り込んでいました。

現在、国立科学博物館の人類学研究室において鑑定中です。数量が多いため、時間がかなりかかると思われますが、新しい情報が入り次第、皆さんにもご報告したいと思います。

なお、小塚原刑場跡については、荒川ふるさと文化館常設展示、ならびに『あらかわ文化財だより26号』をご参照ください。

(八代和香子)

## 埋蔵文化財調査報告

### 「小塚原刑場跡地より」

ほど検出されました。2~3枚外された形跡があり、板の下には、別の板材がさらに並んでいて、深さがどれくらいあるのか、測ることができませんでした。外した木枠のサイズは、一枚の板の幅は20センチメートルほど、板材の幅は20センチメートル、材の厚さが6センチメートルありました。

頭骨は約105個見つかりましたが、木枠の底板が確認されず、まだ下に板が続いていることから、全て出土したとはいえないかもしれません。このあたりは、小塚原の刑場跡地として知られ、江戸時代は鈴ヶ森(品川区)とともに江戸の両御仕置場と呼ばれていました。小塚原が刑場とされた年次は未詳ですが、寛文7年(一六六七)には本所回向院の持地となっています。明治初期に廃止されるまで、多くの人がびとがそこで処刑されたといわれています。

敷地は間口60間余(約109メートル)、奥行30間余(約54メートル)とされ、今回の発見場所は跡地の範囲内に入ることから、刑場に関係する骨ではないかと予想されます。が、詳しいことはわかつていません。

次回の史跡めぐりは開催日間になりましたら区報などでお知らせします。どうぞお楽しみに。

(早乙女祐子)

## 第19回 あらかわの伝統技術展

今までの4日間、荒川区立町屋文化センターで33名の職人さんの参加を得て開催されました。例年、荒川区がこれまでに購入した全伝統工芸品を会場内で紹介していましたが、今年度は荒川ふるさと文化館の企画展示室にその役目を移し、その分広くなつた会場では、たくさんの職人さんにその技を披露していただきました。また、今年は過去の伝統技術展のポスター掲示だけではなく、工芸品をパネルで紹介するコーナーを設け、その製作過程や道具等の解説展示も行いました。

それでは会場の様子を1階から順を追って見ていきましょう。

1階正面玄関前では、おなじみの火づくり実演が行なわれました。ラシャ切鋏(毛織物用鋏)金切り鋏を燃え上がるコードレスの火で造り上げていく模様は迫力満点です。あまりに魅せられて近付きすぎたために、飛び散る火の粉でズボンを焦がしてしまった人もいました。

入口入つて正面が受付です。ここで会場案内図を受け取つたらまず、右手の多目的ホールへどうぞ。ここでは、手描友禅や桐たんす、つまみかんざし等の実演、そして今、外で見てきた

かわの伝統技術展」が、平成10年10月2日(金)から5日(月)までの4日間、荒川区立町屋文化センターで33名の職人さんの参加を得て開催されました。例年、荒川区がこれまでに購入した全伝統工芸品を会場内で紹介していましたが、今年度は荒川ふるさと文化館の企画展示室にその役目を移し、その分広くなつた会場では、たくさんの職人さんにその技を披露していただきました。また、今年は過去の伝統技術展のポスター掲示だけではなく、工芸品をパネルで紹介するコーナーを設け、その製作過程や道具等の解説展示も行いました。

それでは会場の様子を1階から順を追って見ていきましょう。

1階正面玄関前では、おなじみの火づくり実演が行なわれました。ラシャ切鋏(毛織物用鋏)金切り鋏を燃え上がるコードレスの火で造り上げていく模様は迫力満点です。あまりに魅せられて近付きすぎたために、飛び散る火の粉でズボンを焦がしてしまった。

手描友禅では、講師の職人さんが持つて下絵をもとに、思い思いの位置にコスモスの花を描きました。微妙な色使いで、それぞれに個性のあるハンカチが出来上がり、参加者の皆さんも満足気な様子です。

額縁のコーナーでは、職人さんが簡単に金箔を貼つていく様子に、自分も

今回で19回目を迎えた「あら

かわの伝統技術展」が、平成10年10月2日(金)から5日(月)までの4日間、荒川区立町屋文化センターで33名の職人さんの参加を得て開催されました。例年、荒川区がこれまでに購入した全伝統工芸品を会場内で紹介していましたが、今年度は荒川ふるさと文化館の企画展示室にその役目を移し、その分広くなつた会場では、たくさんの職人さんにその技を披露していただきました。また、今年は過去の伝統技術展のポスター掲示だけではなく、工芸品をパネルで紹介するコーナーを設け、その製作過程や道具等の解説展示も行いました。

それでは会場の様子を1階から順を追って見ていきましょう。

1階正面玄関前では、おなじみの火づくり実演が行なわれました。ラシャ切鋏(毛織物用鋏)金切り鋏を燃え上がるコードレスの火で造り上げていく模様は迫力満点です。あまりに魅せられて近付きすぎたために、飛び散る火の粉でズボンを焦がしてしまった。

手描友禅では、講師の職人さんが持つて下絵をもとに、思い思いの位置にコスモスの花を描きました。微妙な色使いで、それぞれに個性のあるハンカチが出来上がり、参加者の皆さんも満足気な様子です。

額縁のコーナーでは、職人さんが簡単

鉄の完成品が展示されています。

桐たんすの材をシユツ、シユツと削るカンナの音が聞こえます。

いつたん受付前へ戻つて、左手の階段を

あがると、第2会場へ出ます。階段をのぼりきつた正面には木版画の彫師、摺師の方々。左に曲がるとブレイコーナーがあります。ここには、平成9年度に荒川区で購入した伝統工芸品の「彫金」と「手植プランシ」が展示されました。またその製作過程を撮影した記録映画『伝統に生きる』を鑑賞し、映画に出演された職人さんから、作品作りや職人の生活について直接お話をうかがうコーナー「職人よもやま話」が開かれ、活発に質問が飛び交いました。

再び実演会場に目を向けてみましょう。桶や木地製造の職人さん、すぐれ職人さんなど、大勢の職人さんが思い思いに実演をする姿が見られます。鍛金職人の音も聞こえます。

ところで、伝統技術展にどのくらいの準備期間がかかると、思われるでしょうか。平成10年度の最初の準備は4月に行われました。約半年の準備期間を経て開催される伝統技術展ですが、これも長い間の経験の積み重ねがあつてこそ。また、再び実演会場に目を向けてみましょう。

そこで、先程の階段に戻つて3階に向かいましょう。3階の第1会議室では、土・日曜日に限つてですが、「体験コーナー」が開かれました。毎年好評を得て予約がいっぱいになるこの企画ですが、今年度は「手描友禅でハンカチに絵を描こう」「額縁に金箔をはつてみよう」という2つのコーナーを行いました。

そろそろ平成11年度の伝統技術展の始動の時期がやってきます。加えて第20回の節目をむかえるこの年、どこまで何ができるのか。まだまだ形にはなつていませんが、少しずつでも前進していくと思います。どうぞ期待ください。

そして、会場でお会いしましょう。

## 文化財保護審議会

東京都荒川区文化財保護審議会委員が

昨年11月13日に委嘱されました。新任2名を含む7名の委員が荒川区文化財保護条例に基づき、区内文化財の登録・指定または解除などについて、教育委員会の諮問に応じて調査、審議し、教育委員会に建議します。

昭和57年より設置された審議会は、今年9期目を迎えます。経済情勢が厳しい現在、文化財行政も例外ではありません。

また、重要な文化財も時代の流れにより失われつありますが、できるだけ多くの区民の方々に区の文化財について理解をしていただけるよう、審議会委員の方々とともに事務局も努力していきます。

(矢野聰子)



(矢野聰子)

### （委員の紹介（敬称略））

氏名	現職等	担当
村井 益男	元日本大学教授	歴史学
櫻井 清彦	昭和女子大学教授	考古学
河合 正朝	慶應義塾大学教授 イーストアングリア大学研究員(英)	美術史
村田英三郎	郷土史家 荒川史談会副幹事長	郷土史
片倉比佐子	元東京都公文書館職員	歴史学
倉石あつ子	東京農業大学講師 杏林大学講師	民俗学
伊藤 裕久	東京理科大学助教授	建築史学

## 郷土学習室から

2

平成11年3月31日

平成10年度下半期も上半期と同様に、生活文化財の展示を郷土学習室で行いました。10月からは「音」、12月は「婚礼」というテーマで展示しました。2月19日からのテーマは「雛」です。

今回の「郷土学習室から」では、雛祭の成立について見てきましょう。

今年も3月にかけてデパート等にお雛様が並びました。雛祭には、甘酒や雛あられを食べたという人も多いのではないでしょうか。ところで、昔の雛祭はどのようなものだったのでしょうか。

もともと古代中国では、3月の第一の巳の日（上巳の日）にケガレを祓う習慣がありました。それが日本に入り、ケガレ・災を移した人形（紙の人形）を水に流して清めるようになったことが起源とされています。そして貴族の子女の遊びである「ひいな遊び」と結びつき、雛祭に発展しました。お雛様を飾る習慣ができたのはそれほど古いことではなく、近世以降になります。

江戸では、日本橋の十軒店（現中央区日本橋室町3丁目）に雛市がたちました。

天保5年（一八三四）に出版された『江戸名所図会』には、「桃の佳節を待てば大裡雛裸人形、手道具等の廻、軒端を並へたり、端午には、胄人形、菖蒲刀

こゝに市を立てて、其賑ひをさ／＼弥生の雛市におとらす」と挿絵とともにその賑わいが描かれています。尾張町・浅草茅町・池の端仲町・麹町・駒込にも雛市がたつていましたが、やはり雛市といえれば十軒店だったようです。明治になると

呉服屋である三井越後屋（現三越百貨店）などでも販売されるようになつたといいます。

雛は、長女の初節句に母方の実家から送られることが多い、その風習は荒川区にも見られます。あられや煮物を作つたり、菱餅・果物・野菜・ざざえ・蛤などをお供えしました。蛤がお供えされるのは、ちょうど潮干狩りの時節であるから（3月3日の潮干狩り自体が流し雛から転じたという説もある）とか、蛤は他の貝とは合わせることができないので、貞操を表したからともいわれています。結婚時には、雛を嫁入り道具の一つとして持参したという事例もあります。

母 因幡の白ウサギさんは、ワニさんに毛皮を剥がされました。

U子 お母さんイナバつて日本？

母 そうよ、因幡は昔の地名で、今の鳥取県のことよ。

U子 昔は日本にもワニがいたの？

母 ワニというのはね、サメのことなの。

鳥取県のあたりでは、そう呼んでるんですつて。そういうえば、昔は白ウサギはあまりなくつて貴重だったの。「瑞祥」つまり、おめでたいことや良い事が起きる前触れと考えられていましたよ。U子も

今度のテストの時、うさちゃんのトレー

ナーでも着いてけば。

U子 じゃあ、赤ウサギがいたらもつとおめでたいね。

母 そんなのいるわけないじゃないの。

U子 いるよきっと。わたし信じてるもん。赤ウサギがいたら、テスト頑張れるのにな。

母 困ったわね。ねえ、M図書館に行つて調べてみようか。

（場面変わって、ふるさと文化館入口）母 あら、郷土学習室ってなにかしら。

## 卯歳アラカルト

### 白ウサギVS赤ウサギ

登場人物 母親 U子 文化館職員し子

あらすじ 読み聞かせが子育てによいと聞き、母はさっそく某M図書館で子供向けの『古事記』を借りてきました。しかし、U子の質問責めに、冷や汗タラタラ。結局、荒川ふるさと文化館の郷土学習室に駆け込んだのであった。ふるさと文化館は、こんな時も、強い味方なのである。

（居間のコタツの場）

母 因幡の白ウサギさんは、ワニさんに毛皮を剥がされました。

U子 お母さんイナバつて日本？

母 そうよ、因幡は昔の地名で、今の鳥取県のことよ。

U子 昔は日本にもワニがいたの？

母 ワニというのはね、サメのことなの。

鳥取県のあたりでは、そう呼んでるんですつて。そういうえば、昔は白ウサギはあまりなくつて貴重だったの。「瑞祥」つまり、おめでたいことや良い事が起きる前触れと考えられていましたよ。U子も

今度のテストの時、うさちゃんのトレー

ナーでも着いてけば。

U子 じゃあ、赤ウサギがいたらもつとおめでたいね。

母 そんなのいるわけないじゃないの。

U子 いるよきっと。わたし信じてるもん。赤ウサギがいたら、テスト頑張れるのにな。

母 困ったわね。ねえ、M図書館に行つて調べてみようか。

（場面変わって、ふるさと文化館入口）母 あら、郷土学習室ってなにかしら。

たくさん歴史の本があるわね。昔は赤ウサギがいたのかもしれないから、あそこに座っているおねえさんに聞いてみようか。

U子 あのう、『おめでたい赤ウサギ』って、いますか。

母 すみません。この子がどうしても探したいというものですから。

U子 こんにちは。『おめでたい赤ウサギ』ですか。ちょっと難しい質問ね。そんな時には、この茶色の本『古事類苑』動物部 それから国史大系本『延喜式』第二十一、治部省の赤ウサギ、赤ウサギ。いましたよ。

U子 ほら、ここに「赤兎は上瑞、白兔は中瑞」と。

U子 どことど？

U子 ほら、ここに「赤兎は上瑞、白兔は中瑞」と。

U子 ？

U子 つまり、昔の人は、白ウサギよりも赤ウサギが現れた時の方が、さらに良い事が起きると考えていたのよ。

U子 赤ウサギの方がおめでたいの？でも、真っ赤なウサギなんて可愛くない。

U子 赤ウサギといつても、真っ赤なわけではありませんと思つわ。それにね、真っ赤な目を持つ白ウサギも、パワーがあるのよ。

U子 テストで百点採れる？

U子 そういうパワーじゃなくて。ウサギの目の赤が、子供を抱瘞という病気から守ってくれるの。昔の人は、赤色に、

そういう力があるとを考えたのね。

U子 そういつぱーじやなくて。ウサギは、六、四で赤ウサギの勝ちというところですかね、ありがとうございました。

かくしてU子は、母お手製の赤ウサギのトレーナーをしぶしぶ着て、テストに臨んだのだった。

（野尻かおる）

平成10年度  
後期

## あらかわ文化財講座

平成10年度後期あらかわ文化財講座日程表

	タイトル	講師
11/10 (火)	日記、瓦版にみる江戸事情 成城大学教授 吉原健一郎氏	
11/17 (火)	江戸の庶民の外食 文教大学助教授 大久保洋子氏	
11/24 (火)	和食の原点を江戸に見る 文教大学助教授 大久保洋子氏	



吉原講師

受講者の関心も高く、江戸時代に限らず引き続いて「食」についての講座を希望する声がありました。

また、サブタイトルにもみられるように、講師の先生方が用意された数多くの資料も興味深いものばかり。あらためて「絵画資料を読む楽しさ」を発見した講座となりました。

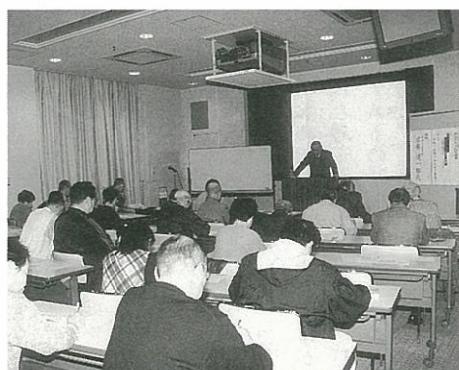
吉原講師は、江戸の瓦版が統制下にあった江戸後期。藤岡屋由藏は、世上の出来事や幕府の政策など「情報」（種）をつぶさに記録し、それを蕎麦16文の当時、24～32文で下座見（記事を集めてくる人々・探訪記者）により購入、96文で大名の留守居役などに売っていたという。「人の噂で飯を食い」と川柳に詠まれるほど、「情報」が商品価値をもち始めたこの頃、人々の求めた「情報」や「笑い」を、落首・落書はじめ数多くの瓦版を紹介しながら説明された。とりあげられた瓦版の内容は、庶民のくらしを反映するもの、為政者への風刺がこめられたもの、災害後の情報提供などさまざまであった。中には多色刷りのものも見られ、鮫絵以降、錦絵的瓦版が多く登場することにふながら、人々の関心の高さと浮世絵師らの関わりも指摘された。

## (2) 「江戸の庶民の外食」

現在ではあたりまえとなつた食生活や外食産業が発達してきた江戸では、人の多く集まる場所には屋台が数多く出店し、庶民の食生活は豊かなものとなつた。

一方、そうした場所での飲食をよしとした武士たちはどうしていたのか。

「食」の講座、第2回目は、もう一つの江戸の食文化「料理茶屋」の出現・発展と日本料理の大成を、資料とともに検証した。



講座風景

## (3) 「和食の原点を江戸に見る」

外食産業が発達してきた江戸では、人の多く集まる場所には屋台が数多く出店し、庶民の食生活は豊かなものとなつた。

一方、そうした場所での飲食をよしとした武士たちはどうしていたのか。

「食」の講座、第2回目は、もう一つの江戸の食文化「料理茶屋」の出現・発展と日本料理の大成を、資料とともに検証した。



大久保講師

③ 火事の多発による職人の増加

① 德川家康入府後の都市整備基盤としての水・道・塩の確保

② 参勤交代制度による一極集中化がもたらす「人の集中」

③ 火事の多発による職人の増加

荒川ふるさと文化館における第2回目の文化財講座。今回は「江戸のくらし」とはやりもの「流行」事情、浮世絵や摺物からみると楽しと楽しみ「食」のテーマで、2人の講師にご講演いただきました。

江戸時代の庶民の生き生きとしたくらしづくりには、受講者の関心も高く、江戸時代に限らず引き続いて「食」についての講座を希望する声がありました。

また、サブタイトルにもみられるように、講師の先生方が用意された数多くの資料も興味深いものばかり。あらためて「絵画資料を読む楽しさ」を発見した講座となりました。

出版取締令が出され、表立った情報提供物が統制下にあった江戸後期。藤岡屋由藏は、世上の出来事や幕府の政策などの「情報」（種）をつぶさに記録し、それが蕎麦16文の当時、24～32文で下座見（記事を集めてくる人々・探訪記者）により購入、96文で大名の留守居役などに売っていたという。「人の噂で飯を食い」と川柳に詠まれるほど、「情報」が商品価値をもち始めたこの頃、人々の求めた「情報」や「笑い」を、落首・落書はじめ数多くの瓦版を紹介しながら説明された。とりあげられた瓦版の内容は、庶民のくらしを反映するもの、為政者への風刺がこめられたもの、災害後の情報提供などさまざまであった。中には多色刷りのものも見られ、鮫絵以降、錦絵的瓦版が多く登場することにふながら、人々の関心の高さと浮世絵師らの関わりも指摘された。

では、さっそく内容をふりかえてみましょう。

これらさまざまな「情報」の流布と伝達手段の発達は、景気の悪化、災害、コレラ・麻疹の悪疫流行、対外問題の緊迫化などに対する人々の「不安」が蔓延する幕末において急速に進む。そしてそれは、庶民がより情報を必要とした社会になつていたことを暗示してお

り、現在にも通じる現象であろうと結ばれた。

出版取締令が出され、表立った情報提供物が統制下にあった江戸後期。藤岡屋由藏は、世上の出来事や幕府の政策などの「情報」（種）をつぶさに記録し、それが蕎麦16文の当時、24～32文で下座見（記事を集めてくる人々・探訪記者）により購入、96文で大名の留守居役などに売っていたという。「人の噂で飯を食い」と川柳に詠まれるほど、「情報」が商品価値をもち始めたこの頃、人々の求めた「情報」や「笑い」を、落首・落書はじめ数多くの瓦版を紹介しながら説明された。とりあげられた瓦版の内容は、庶民のくらしを反映するもの、為政者への風刺がこめられたもの、災害後の情報提供などさまざまであった。中には多色刷りのものも見られ、鮫絵以降、錦絵的瓦版が多く登場することにふながら、人々の関心の高さと浮世絵師らの関わりも指摘された。

また、今日みられるファーストフードの成立と繁盛の前提には、「人口の集中した都市」があることを指摘し、同じ「都市」でもリサイクル都市とよばれた江戸と、今日の東京とはその規模が異なることについてもふれ、東京という街の規模の大きさゆえに引き起こされる現在の環境問題についても言及された。

④ 生産場所をもたない都市生活者

⑤ 武士や職人などの単身・独身生活者などの増加

を挙げて「江戸」の成立を説明。これらを前提とした屋台食の蕎麦・てんぷら・握りずしの成立過程を、『守貞漫稿』・『東都歳事記』・鍛形蕙翁画の『職人尽絵詞』などをとりあげて検証し、絵画資料の細部について注意深くみてゆくことの必要性とその面白さを説かれた。

また、今日みられるファーストフードの成立と繁盛の前提には、「人口の集中した都市」があることを指摘し、同じ「都市」でもリサイクル都市とよばれた江戸と、今日の東京とはその規模が異なることについてもふれ、東京という街の規模の大きさゆえに引き起こされる現在の環境問題についても言及された。

平成11年3月31日

前の茶店が茶飯・豆腐汁・煮豆・煮しめをセットメニューとして出したのが始まりとされる「奈良茶飯屋」が、各所に広まって料理屋として発展。以後、宝暦（一七五〇一七六四）、明和（一七六四～一七七二）頃に藩の江戸留守居役などが利用する升屋、八百善などの高級料理屋ができる。庶民はなかなか出入りできず、専ら武士階級が談合の場として利用したというが、店の評判は「粹」「通」といった言葉とともに評判記・隨筆記に記され、「守貞漫稿」には、これらの料理屋とともに豆腐田楽で有名な真先（南千住）の甲子屋の名もみられた。

また、今に残る高級料理屋の一つ、武家や寺社相手の仕出しに始まつた八百善は、宣伝方法にギフトカードやおこし絵を用い、さらに四代目八百屋善四郎による料理本『江戸流行料理通』を発行。しかもこれが地方へ戻る武士や商売人の手土産となり当時話題となる。前回ふれた外食成立基盤の一つであった「参勤交替制度」が「食」の分野においてもその情報を地方と江戸で行き来させるメディアであったことを示す。

また、膳のスタイルは平安時代頃より確立され、江戸後期には懷石料理の影響を受けつつも、本膳料理が会席料理として庶民の間に定着し、それらが現在日本旅館や料理屋の配膳に受け継がれていることを、絵巻や資料を見ながら検証した。味覚の検証までは難しい絵画資料であることをふまえながら、「食」やその「作法」という私たちのくらしに身近な話題から歴史を探求する面白さもあわせて提示された。

(西山智香)

## 100年前の号外は?



### 《号外17000分の1の日本外史》

義和団事件：明治33年6月、清国政府が突如、英・米・露・日等8か国に対して宣戦布告。歐州列強の中国侵略・分割に憤慨する秘密結社義和団が民衆を巻き込んで蜂起した排外運動を契機とした事件です。日本も軍隊を派遣し、列強連合軍の中心として北京を総攻撃、北京が陥没して事件は終結しました。

以後、日本は帝国主義の一員として国際社会に登場していきます。100年前は「世紀末」という発想ではなかつたでしょうね。

(田淵 正和)

いよいよ新世紀へ向けてカウントダウントが始まりました。長引く経済不況、コンピュータ「西暦2000年問題」、ノストラダムスの大予言などが「世紀末」を象徴しているようです。

約100年前、20世紀を目前に控えた明治33年（一九〇〇）、日本はどうだったか、号外を探つてみました。この年の皆川号外は、ほとんどが義和団事件（北清事変）に関する号外です。

## あらかわ版願懸重宝記

日本人は、昔から本当に参り好き。

それが軽い気持ちからなり、深刻に悩んだ末だつたり、何かにつけて、神仏に手を合わせる。ここあらかわにも、知る人ぞ知る靈験あらたかな! 神様・仏様が、大勢いらっしゃる。江戸の御利益神仏名鑑『願懸重宝記』（文化11年）にあやかって、『あらかわ版願懸重宝記』をここに紹介しよう。

日本人は、昔から本当に参り好き。

それが軽い気持ちからなり、深刻に悩んだ末だつたり、何かにつけて、神仏に手を合わせる。ここあらかわにも、知る人ぞ知る靈験あらたかな! 神様・仏様が、大勢いらっしゃる。江戸の御利益神仏名鑑『願懸重宝記』（文化11年）にあやかって、『あらかわ版願懸重宝記』をここに紹介しよう。

28石浜神社内）宝徳3年（一四五二）、万治元年（一六五八）の庚申塔に縄を結ぶ。現存せず。

## 商売繁盛・家内和合

南泉寺のお客神（西日暮里3-18）

母乳 素盞雄神社の大銀杏（南千住6-60）皮をせんじて飲めば乳の出がよくなる。乳搾りの婦人を描いた絵馬奉納。

母乳 素盞雄神社の大銀杏（南千住6-60）皮をせんじて飲めば乳の出がよくなる。乳搾りの婦人を描いた絵馬奉納。

母乳 素盞雄神社の大銀杏（南千住6-60）皮をせんじて飲めば乳の出がよくなる。乳搾りの婦人を描いた絵馬奉納。

失物 庚申横町の庚申堂（南千住6-47）宝曆年間に建てられた庚申塔にお参りする。堂内の庚申塔は新造のもの。

失物 庚申横町の庚申堂（南千住6-47）宝曆年間に建てられた庚申塔にお参りする。堂内の庚申塔は新造のもの。

子育 小塚原地蔵（南千住5-33回向院）地蔵堀の石地蔵（荒川3-1-1）

子育 地蔵（東尾久3-2満光寺）

子育 地蔵（西尾久3-10地蔵寺）

子育 地蔵（西尾久6-1-32）

子育 地蔵（荒川4-1-10）

江戸六地蔵

（西日暮里3-4養福寺）

学問 北野神社（南千住6-60素盞雄神社）

天神社（南千住3-28石浜神社内）

\* 神仏の靈験で願いがかなつたら、絵馬などを奉納すること。

【参考文献】『再校江戸砂子』『新修荒川区史』上下巻『新編武藏風土記稿』『東都歲事記』等

(野尻かおる)

**花柳病** 裕安寺の耳無不動（荒川3-22）  
新吉原を始め花街の人々がお参りした。  
**病** 西光寺の笹団子の如來（南千住5-16）  
おこり 団子を笹に刺してお供えする。



裕安寺の耳無不動

## 文化財保護推進員活動

皆さんは区内のあちらこちらで「あらかわの史跡・文化財」と記された史跡文化財説明板を目にしたことがあると思いります。この説明板は荒川区の歴史や文化をより身近に知るために立てられており、現在区内に約110本あります。荒川区の文化財行政と区民の皆さんのがけ橋となつて活動を続ける文化財保護推進員は、昨年度あらかわ史跡文化財説明板の現状調査を行いました。説明板の破損や汚れているところがないか、文章が読みにくくないかなど、説明板を気持ち良く利用していただるために、区内に設置されているひとつひとつを見てまわりました。

また今年度は、寺社などをくまなくまわり、荒川区の登録・指定文化財の状況を調査しました。文化財は区にとっての貴重な財産です。またこれらを守ることが文化財行政の重要な役目になっています。

文化財保護推進員の活動で、こうした文化財の状況を確認し、パトロールをすることによって、区民の皆さんに文化財を大切にする気持ちを理解していただければ幸いです。このような調査活動のほか、文化財保護推進員は年2回開催している文化財講座や年に1回開かれる伝統技術展、史跡めぐりなどの運営に参加して、荒川区の文化財行政に活力を与えています。

昭和57年に荒川区文化財保護条例が制定されてから15年間、荒川区の文化財とともに歩んで来た文化財保護推進員活動。これからも文化財を守るべく、活動をつづけていきます。(早乙女祐子)

## 伝言板

◆受賞おめでとうございます!

平成10年度東京都優秀技能者賞

吉田吉治氏

《荒川ふるさと文化館のご案内》

時間 9時30分～17時(入館16時30分迄)

観覧料 常設展－大人100円(中学生以下、65歳以上及び障害者(含介助者)の区民の方は免除されます)

休館日 月曜日～1月4日

JR南千住駅(徒歩8分)

都電三ノ輪橋駅(徒歩15分)

京成線千住大橋駅(徒歩8分)

所在地 荒川区南千住6-63-1

電話 380719234  
電話 380719234  
営団地下鉄日比谷線南千住駅(徒歩8分)  
自 平成10年10月  
至 平成11年3月  
企画展終了

JR南千住駅(徒歩8分)

京成線千住大橋駅(徒歩8分)

所在地 荒川区南千住6-63-1

## 文化財・文化館日誌

10.11	企画展終了
10.2～5	第19回あらかわの伝統技術展(出場者33人、来場者延べ5千人)
10.11	「技・粹・趣」－荒川区指定無形文化財保持者作品展－
13	荒川区立第十中学校跡地試掘調査
24.19	企画展開始 「幕末の三筆展－貫名海屋を中心として－」 史跡めぐり(南千住地区)

1.	11.	27.	28.
31	29.27.9.27	23.16	20.11
27	27	16	11
9	27	10	南千住8丁目個人住宅建設予定
27	27	10	南千住8丁目個人住宅建設予定
23	16	9	南千住3丁目個人住宅建設予定
23	16	4	南千住8丁目住宅建設予定地試掘調査
23	16	2	南千住3丁目施設建設予定地試掘調査
23	16	1	第3回館蔵資料展示開始
23	16	1	区登録文化財(3件)・指定文化財(1件)教育委員会告示
23	16	1	(講師)大久保洋子氏
23	16	1	江戸の庶民の外食
23	16	1	(講師)大久保洋子氏 文教大
23	16	1	文化財保護審議会委員委嘱
23	16	1	あらかわ文化財講座後期②
23	16	1	学教授
23	16	1	あらかわ文化財講座後期①
23	16	1	「日記・瓦版にみる江戸事情」
23	16	1	(講師)吉原健一郎氏 成城大
23	16	1	事賞贈呈式
23	16	1	常磐新線南千住駅南部付近建設工事に伴う埋蔵文化財立会調査
23	16	1	平成10年度東京都優秀技能者都知
23	16	1	第6回館蔵資料展示開始
23	16	1	第6回館蔵資料展示終了
23	16	1	○史跡説明板設置(千住の河岸・砂尾堤と砂尾長者)
23	16	1	○平成10年度伝統工芸技術記録映画刊行
23	16	1	○『荒川の民俗』刊行
23	16	1	○『荒川ふるさと文化館常設展示』
23	16	1	○伝統芸能等記録ビデオ完成
23	16	1	○『荒川ふるさと文化館だより』
23	16	1	○『荒川の民俗』刊行
23	16	1	○『荒川ふるさと文化館常設展示』
23	16	1	○伝統芸能等記録ビデオ完成
23	16	1	○『荒川ふるさと文化館だより』
23	16	1	○『荒川の民俗』刊行
23	16	1	○『荒川ふるさと文化館常設展示』
23	16	1	○伝統芸能等記録ビデオ完成
23	16	1	○『荒川ふるさと文化館だより』
23	16	1	○『荒川の民俗』刊行
23	16	1	○『荒川ふるさと文化館常設展示』
23	16	1	○伝統芸能等記録ビデオ完成
23	16	1	○『荒川ふるさと文化館だより』
23	16	1	○『荒川の民俗』刊行
23	16	1	○『荒川ふるさと文化館常設展示』
23	16	1	○伝統芸能等記録ビデオ完成
23	16	1	○『荒川ふるさと文化館だより』
23	16	1	○『荒川の民俗』刊行
23	16	1	○『荒川ふるさと文化館常設展示』
23	16	1	○伝統芸能等記録ビデオ完成
23	16	1	○『荒川ふるさと文化館だより』
23	16	1	○『荒川の民俗』刊行
23	16	1	○『荒川ふるさと文化館常設展示』
23	16	1	○伝統芸能等記録ビデオ完成
23	16	1	○『荒川ふるさと文化館だより』
23	16	1	○『荒川の民俗』刊行
23	16	1	○『荒川ふるさと文化館常設展示』
23	16	1	○伝統芸能等記録ビデオ完成
23	16	1	○『荒川ふるさと文化館だより』
23	16	1	○『荒川の民俗』刊行
23	16	1	○『荒川ふるさと文化館常設展示』
23	16	1	○伝統芸能等記録ビデオ完成
23	16	1	○『荒川ふるさと文化館だより』
23	16	1	○『荒川の民俗』刊行
23	16	1	○『荒川ふるさと文化館常設展示』
23	16	1	○伝統芸能等記録ビデオ完成
23	16	1	○『荒川ふるさと文化館だより』
23	16	1	○『荒川の民俗』刊行
23	16	1	○『荒川ふるさと文化館常設展示』
23	16	1	○伝統芸能等記録ビデオ完成
23	16	1	○『荒川ふるさと文化館だより』
23	16	1	○『荒川の民俗』刊行
23	16	1	○『荒川ふるさと文化館常設展示』
23	16	1	○伝統芸能等記録ビデオ完成
23	16	1	○『荒川ふるさと文化館だより』
23	16	1	○『荒川の民俗』刊行
23	16	1	○『荒川ふるさと文化館常設展示』
23	16	1	○伝統芸能等記録ビデオ完成
23	16	1	○『荒川ふるさと文化館だより』
23	16	1	○『荒川の民俗』刊行
23	16	1	○『荒川ふるさと文化館常設展示』
23	16	1	○伝統芸能等記録ビデオ完成
23	16	1	○『荒川ふるさと文化館だより』
23	16	1	○『荒川の民俗』刊行
23	16	1	○『荒川ふるさと文化館常設展示』
23	16	1	○伝統芸能等記録ビデオ完成
23	16	1	○『荒川ふるさと文化館だより』
23	16	1	○『荒川の民俗』刊行
23	16	1	○『荒川ふるさと文化館常設展示』
23	16	1	○伝統芸能等記録ビデオ完成
23	16	1	○『荒川ふるさと文化館だより』
23	16	1	○『荒川の民俗』刊行
23	16	1	○『荒川ふるさと文化館常設展示』
23	16	1	○伝統芸能等記録ビデオ完成
23	16	1	○『荒川ふるさと文化館だより』
23	16	1	○『荒川の民俗』刊行
23	16	1	○『荒川ふるさと文化館常設展示』
23	16	1	○伝統芸能等記録ビデオ完成
23	16	1	○『荒川ふるさと文化館だより』
23	16	1	○『荒川の民俗』刊行
23	16	1	○『荒川ふるさと文化館常設展示』
23	16	1	○伝統芸能等記録ビデオ完成
23	16	1	○『荒川ふるさと文化館だより』
23	16	1	○『荒川の民俗』刊行
23	16	1	○『荒川ふるさと文化館常設展示』
23	16	1	○伝統芸能等記録ビデオ完成
23	16	1	○『荒川ふるさと文化館だより』
23	16	1	○『荒川の民俗』刊行
23	16	1	○『荒川ふるさと文化館常設展示』
23	16	1	○伝統芸能等記録ビデオ完成
23	16	1	○『荒川ふるさと文化館だより』
23	16	1	○『荒川の民俗』刊行
23	16	1	○『荒川ふるさと文化館常設展示』
23	16	1	○伝統芸能等記録ビデオ完成
23	16	1	○『荒川ふるさと文化館だより』
23	16	1	○『荒川の民俗』刊行
23	16	1	○『荒川ふるさと文化館常設展示』
23	16	1	○伝統芸能等記録ビデオ完成
23	16	1	○『荒川ふるさと文化館だより』
23	16	1	○『荒川の民俗』刊行
23	16	1	○『荒川ふるさと文化館常設展示』
23	16	1	○伝統芸能等記録ビデオ完成
23	16	1	○『荒川ふるさと文化館だより』
23	16	1	○『荒川の民俗』刊行
23	16	1	○『荒川ふるさと文化館常設展示』
23	16	1	○伝統芸能等記録ビデオ完成
23	16	1	○『荒川ふるさと文化館だより』
23	16	1	○『荒川の民俗』刊行
23	16	1	○『荒川ふるさと文化館常設展示』
23	16	1	○伝統芸能等記録ビデオ完成
23	16	1	○『荒川ふるさと文化館だより』
23	16	1	○『荒川の民俗』刊行
23	16	1	○『荒川ふるさと文化館常設展示』
23	16	1	○伝統芸能等記録ビデオ完成
23	16	1	○『荒川ふるさと文化館だより』
23	16	1	○『荒川の民俗』刊行
23	16	1	○『荒川ふるさと文化館常設展示』
23	16	1	○伝統芸能等記録ビデオ完成
23	16	1	○『荒川ふるさと文化館だより』
23	16	1	○『荒川の民俗』刊行
23	16	1	○『荒川ふるさと文化館常設展示』
23	16	1	○伝統芸能等記録ビデオ完成
23	16	1	○『荒川ふるさと文化館だより』
23	16	1	○『荒川の民俗』刊行
23	16	1	○『荒川ふるさと文化館常設展示』
23	16	1	○伝統芸能等記録ビデオ完成
23	16	1	○『荒川ふるさと文化館だより』
23	16	1	○『荒川の民俗』刊行
23	16	1	○『荒川ふるさと文化館常設展示』
23	16	1	○伝統芸能等記録ビデオ完成
23	16	1	○『荒川ふるさと文化館だより』
23	16	1	○『荒川の民俗』刊行
23	16	1	○『荒川ふるさと文化館常設展示』
23	16	1	○伝統芸能等記録ビデオ完成
23	16	1	○『荒川ふるさと文化館だより』
23	16	1	○『荒川の民俗』刊行
23	16	1	○『荒川ふるさと文化館常設展示』
23	16	1	○伝統芸能等記録ビデオ完成
23	16	1	○『荒川ふるさと文化館だより』
23	16	1	○『荒川の民俗』刊行
23	16	1	○『荒川ふるさと文化館常設展示』
23	16	1	○伝統芸能等記録ビデオ完成
23	16	1	○『荒川ふるさと文化館だより』
23	16	1	○『荒川の民俗』刊行
23	16	1	○『荒川ふるさと文化館常設展示』
23	16	1	○伝統芸能等記録ビデオ完成
23	16	1	○『荒川ふるさと文化館だより』
23	16	1	○『荒川の民俗』刊行
23	16	1	○『荒川ふるさと文化館常設展示』
23	16	1	○伝統芸能等記録ビデオ完成
23	16	1	○『荒川ふるさと文化館だより』
23	16	1	○『荒川の民俗』刊行
23	16	1	○『荒川ふるさと文化館常設展示』
23	16	1	○伝統芸能等記録ビデオ完成
23	16	1	○『荒川ふるさと文化館だより』
23	16	1	○『荒川の民俗』刊行
23	16	1	○『荒川ふるさと文化館常設展示』
23	16	1	○伝統芸能等記録ビデオ完成
23	16	1	○『荒川ふるさと文化館だより』
23	16	1	○『荒川の民俗』刊行
23	16	1	○『荒川ふるさと文化館常設展示』
23	16	1	○伝統芸能等記録ビデオ完成
23	16	1	○『荒川ふるさと文化館だより』
23	16	1	○『荒川の民俗』刊行
23	16	1	○『荒川ふるさと文化館常設展示』
23	16	1	○伝統芸能等記録ビデオ完成
23	16	1	○『荒川ふるさと文化館だより』
23	16	1	○『荒川の民俗』刊行
23	16	1	○『荒川ふるさと文化館常設展示』
23	16	1	○伝統芸能等記録ビデオ完成
23	16	1	○『荒川ふるさと文化館だより』
23	16	1	○『荒川の民俗』刊行
23	16	1	○『荒川ふるさと文化館常設展示』
23	16	1	○伝統芸能等記録ビデオ完成
23	16	1	○『荒川ふるさと文化館だより』
23	16	1	○『荒川の民俗』刊行
23	16	1	○『荒川ふるさと文化館常設展示』
23	16	1	○伝統芸能等記録ビデオ完成
23	16	1	○『荒川ふるさと文化館だより』
23	16	1	○『荒川の民俗』刊行
23	16	1	○『荒川ふるさと文化館常設展示』
23	16	1	○伝統芸能等記録ビデオ完成
23	16	1	○『荒川ふるさと文化館だより』
23	16	1	○『荒川の民俗』刊行
23	16	1	○『荒川ふるさと文化館常設展示』
23	16	1	○伝統芸能等記録ビデオ完成
23	16	1	○『荒川ふるさと文化館だより』
23	16	1	○『荒川の民俗』刊行
23	16	1	○『荒川ふるさと文化館常設展示』
23	16	1	○伝統芸能等記録ビデオ完成
23	16	1	○『荒川ふるさと文化館だより』
23	16	1	○『荒川の民俗』刊行
23	16	1	○『荒川ふるさと文化館常設展示』
23	16	1	○伝統芸能等記録ビデオ完成
23	16	1	○『荒川ふるさと文化館だより』
23	16	1	○『荒川の民俗』刊行
23	16	1	○『荒川ふるさと文化館常設展示』
23	16	1	○伝統芸能等記録ビデオ完成
23	16	1	○『荒川ふるさと文化館だより』
23</			